

■ 工夫4. リユースカップでスイーツ作り、空き容器回収体験

この冊子の38ページで紹介されているリユースカップを使用し、ゼリーやプリンを作る。

冷蔵庫で固まるのを待つ間に、3Rの学習をする。完成を待つワクワク感で授業に臨むことができ、経験上、活気のある授業になると感じる。

食べた後のリユースカップを洗わないままビニール袋にいれて各家庭に持ち帰り、家で洗って後日学校の回収箱に入れる、というリユース体験をさせる。

保護者宛てにも、そのリユースカップはどういうもので、どういう意義があるかがわかるような簡単な手紙を添え、洗って回収することの理解を得る。

その日学習した内容について簡単な穴あきクイズなどを添えると保護者と一緒に考える機会となる。

■ 工夫5 風船ふくらまし大会

パネルやDVDで温暖化やCO₂について学習した際、CO₂〇〇グラム削減という表現がある。

容器のリユースの学習でも実際に数値を提示する。

リユースびんとリサイクルびんのCO₂量を比較、その差の数値が削減されることを認識した後

引き算による数値

〈リサイクルびんのCO₂量は187g〉-

〈リユースびんのCO₂量は68g〉=CO₂量の差が119g

「じゃあ、このCO₂量で119グラムってピンとこないけど、どれくらいの量だと思う？」

「風船でふくらませてみようか！」

班対抗などにすると面白い。市民グループの授業の場合、先生方にも入っていただくとより盛り上がる。⇒119gのCO₂は、直径49センチの風船

CO₂のグラム数と風船の直径を計算する式の紹介

①119gのCO₂の気体の体積は、

〈CO₂のガス密度 1.977kg/m³〉より求める。

$$119\text{g} \times 1,000,000 \div 1977 = 60,192\text{ml}$$

②体積60,192mlより球の直径を求める

〈体積 $V = 4/3 \pi r^3$ (3分の4パイアール3乗)の逆算をして求める〉

$$60,192\text{ml} \div 3.14 \div 4 \times 3 = 14377$$

次に14377の三乗根を求めると半径24.3cm、直径は約49cm
三乗根はエクセルの数式=POWER(14377,1/3)で求められる。

風船ゲームで、リユースびんは、距離、回収率、回転率の条件がそろえば、リユースびんの方がリサイクルびんより環境負荷が低くなることが楽しく実感できる。

また、他の行動によるCO₂削減のデータも紹介して、自分たちひとりひとりの行動が環境問題の解決につながると実感させる。

■ 工夫6 マイカップでハーブティー

マイカップを持って来てもらえない状況の時は、会場にある湯飲みや38ページのリユースカップを使用、使い捨ての紙コップとの違いを実感してもらう。

紅茶を飲む場合、リーフティー、ティーバッグ、缶やPETボトルに入ったもの、を比較してその時出るごみの量や、自分の気分などを考えてもらう。

たとえば飲み物を飲む、という行為がただ単に喉の渇きを潤すだけでなく、自分の生活を豊かにすることにつながる。

お気に入りのマイカップには人それぞれの物語がある、たとえば大好きな人からのプレゼント、たとえば誰かと一緒に過ごした思い出…そういうものに囲まれている生活。

壊したり踏みつけにしても平気なものよりも、割れば悲しいような大切なものに囲まれている生活。割れる物はたしかに儚く危険な物かもしれないが、割れないように大切に扱うきもちを育むきっかけとなる。

私たちはごみを減らすことにしぶしぶ取り組むのではなく、その方が豊かで幸せなんだと感じられる時間になれば…。自ら行動することにつながることを期待できる。